

街を行く

第35回 羽田空港 Tokyo International Airport

ワクワクする空のターミナル

今回は少し視点を変えて羽田(東京国際)空港を取り上げます。この空港から、数えきれないほど多くの色んな都市へ旅立ってきました。訪れるたびに思うのは「単なるターミナルではないな」ということ。では何なのだろう? 疑問は今回の訪問でやっと晴れました。答えはこの空港はターミナル「機能」ではなく「街」だからです。

羽田は単純に空港利用客の需要を満たすためだけでなく、そこで働く多くの人の生活を支える場所に広がっています。かつては衣・食のためのショッピングモールやレストランを施設内に擁し、住としてホテルが近くに点在するというのが、一般的な空港のスタイルでした。今や、すべての要素は空港内に揃っています。空港を中心に近隣も含めた一体としての街から、空港のみで一つの街の役割を担っているのです。空港好きの小生、この変遷は良くわかります。毎回出発時刻よりもかなり早く到着し、時間の許す限りあちこちを散策しているのですから。

街としての羽田空港の残念な点は、諸外国のハブ空港と比べて少し“せせこましい”のです。成田空港との共存ですから仕方ないのでしょうか。もし羽田に全機能が集中していたら、おそらく世界のハブ空港となっていたはず。色々な問題があって進まなかった羽田の拡張も最近はずーと進捗しています。羽田の施設としての充実は日本の経済発展には欠かせないことであり、ますます街としての役割をも拡げて行くことでしょう。羽田が街と言える理由はもう1つありま



人が行き交うための「機能」から「街」へと進化した羽田(東京国際)空港

す。多目的な需要を満たすインフラだけでなく、行き交う人も街そのものです。人の出会いと別れの場であり、これから訪れる街への期待と訪れた街への思いを抱えた人々が交差する所だからでしょう。ショッピングモールがあり、さらにホテルやオフィスビルも併設される点ではJRの全国主要駅と同じです。しかし空港とはどこか違う、とりわけ羽田は別格。訪れるだけでワクワクするだけでなく、特別な気持ちも抱かせてくれます。なんか敷居が高いのだが、だからこそちょっと背伸びしたような。それは飛行機がわれわれ日本人にとって新幹線より特別な乗り物だからでしょう。

今回はいつもと違う取材の観点からみたので良く解りました。なにぶん、夏休みシーズンのお盆の時期ですから、溢れんばかりの笑顔の元気な子供たちと、その傍らで暑さとの戦いにくらげ顔のビ

ジネスマンが対象的でした(ご苦労様)。肝に銘じて小生も、これからは笑顔でここを訪れる様に気をつけます。さすがは羽田、テレビ番組で見かける芸能人にも多くすれ違いましたよ。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」
http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro